

# 鳥羽金剛心院跡出土の方形金具

## 一発掘された荘厳具から院政期の御堂をイメージする 2 ー

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



図1 金剛心院跡出土方形金具 表面



図3a 中尊寺金色堂内陣（筆者撮影）

はじめに リーフレット京都No. 441 では、鳥羽勝光明院跡で発見された孔雀文金具から、院政期の御堂の優美な造形をイメージしました。今回は、同じく鳥羽の金剛心院跡で発掘された方形金具（図1）をもとに荘厳を考えます。

**金剛心院の建築と方形金具** 金剛心院は、勝光明院と同じく鳥羽法皇が創建した寺院で、仁平4年（1154）に釈迦堂・九体阿弥陀堂・寝殿などが供養されました。供養願文（『本朝文集』巻六十一所収）によれば、釈迦堂は三間四面、二階建ての本瓦葺。丈六の釈迦如来像と八尺

の普賢・文殊菩薩像を安置しました。発掘調査により南向きで、平等院鳳凰堂のように裳層をそなえていたこともわかりました。

方形金具は釈迦堂跡の東に隣接する池の中から発見されました。一辺約9.1cmの正方形で、鍍金をほどこしています。中心のガラス珠の周囲に花卉をまわし、その外側に優美な曲線を描く宝相華文を飾っています。裏面にも同じ文様があらわされ、中央には花卉をあらわしたリングをあて、ガラス珠を挟み込んでいます。四つの角と左右下辺に小さな穴を開け、穴の一つには針金ものこり、環珞の一部とわかります。環珞は瑠璃珠や金具を連ねたもので、胸飾りなど仏像の飾身具とされ、また天蓋や堂内を飾る華鬘・幡などの下に吊されます。

よく似た方形金具は、鳥羽成菩提

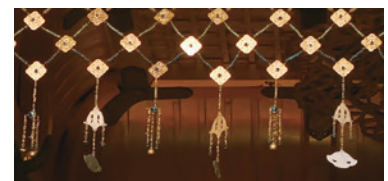


図3b 同 羅網部分（筆者撮影）

院跡の白河天皇陵でも発見され（図2）、こちらは一辺約4.3cm、ガラス珠は入らず、宝相華文もおとなしめです。では、これらはどこに使われたのでしょうか。金剛心院のものはガラス珠をあしらうなど、天蓋や華鬘・幡の環珞としては、立派すぎます。華やかさは仏像の飾身具にふさわしいのですが、仏像彫刻や仏画の環珞を探しても、こうした正方形の金具は見出せません。定型化しているようにみえる方形金具ですが、その使い方がわからないのです。

**羅網のなかの方形金具** そこで建築を見ていくと、中尊寺金色堂では（図3a）、堂内の母屋柱（巻



図2 成菩提院跡出土方形金具



図 4a 耕三寺蔵浄土曼荼羅刻出龕（筆者撮影）

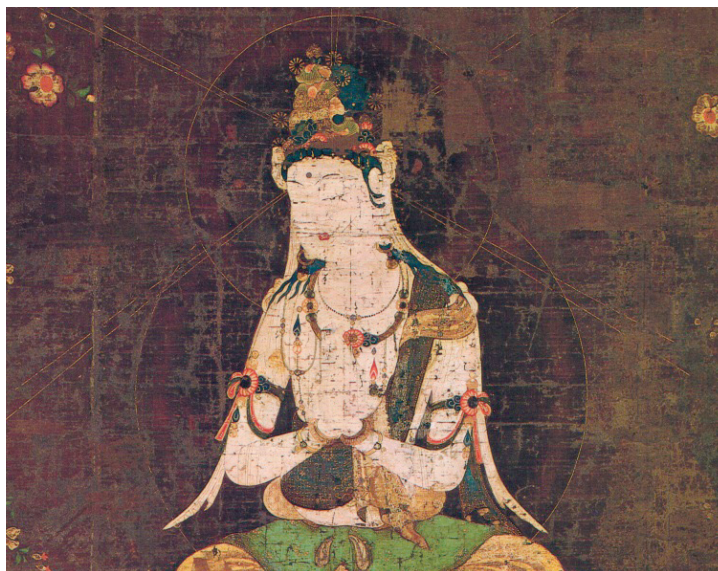


図 5 普賢菩薩像 部分（東京国立博物館蔵）



図 4b 同 宮殿部分（筆者撮影）

柱)の間に、本尊を取り巻くように、珠や金具を網目状に連ねた羅網を飾り、そのなかに方形金具がもちいられています(図3b)。これは楣材の下面に等間隔で針金の釘がのこり、解体修理で方形金具や針金でつながれた珠が発見されたため、法隆寺蔵聖徳太子七歳像(治暦5年(1069)、重要文化財)の宮殿の羅網などを参考に復元されたものです。

平等院鳳凰堂では、堂の正面や側面の扉を開く柱間に、羅網を吊していたとみられる小さなリング状の金具やその穴が等間隔にのこっています。こうした羅網のなかにあったとしたら、金剛心院の方形金具はどのようにイメージできるのでしょうか。

#### 浄土の荘厳としての羅網と散華

美術作品ですが、極楽浄土の様を彫刻した広島県尾道市の耕三寺蔵

浄土曼荼羅刻出龕(図4a、平安時代後期、重要文化財)では、阿弥陀三尊の宮殿の軒下に羅網を吊ったとみられるリングが並んでいます(図4b)。浄土の宮殿の間口に羅網を飾るイメージがあったことがうかがえます。

一方、12世紀の東京国立博物館蔵普賢菩薩像(図5、国宝)を見ると、菩薩の周囲に散華として茎や葉のついた華が描かれ、方形金具はこうした散華を院政期らしく文様化したものではないでしょうか。これが本尊を取り巻く羅網のなかにちりばめられ、あるいは下に吊されていたら、本尊のまわりで舞い散る散華のようです。

当時、広く読まれた源信の『往生要集』には、極楽浄土では宝樹に羅網がかかり、そよ風が吹くと微かに揺れて華を静かに散らすと説かれています(大文第二門「欣求浄土」)。筆者は、建築の間口にかけられた羅網は、こうした浄土のイメージをモチーフとしているのではないかと推察しています。

緑色に光るガラス珠 藤原頼長の日記『台記』には、金剛心院の釈迦

堂と御所は鳥羽法皇も感嘆するほど華美だと記されています(仁平4年7月30日条)。金剛心院の方形金具は、優美な唐草文様はもちろん、中心にガラス珠を入れる点できわだっています。このガラス珠は、今は白色化していますが、反対側から光を当てると、美しい緑色に光るのです(図6)。表裏とも同じ文様をほどこしているのは、両側から見られる場所でもちいたことを示唆します。もし、鳳凰堂のように扉の柱間に羅網があり、そこにこの方形金具が吊されていたとしたら——扉を開け放ち、外からの光で散華が輝きながら舞い散る堂内はどれほど華麗だったか、想像を馳せてみてください。

(京都大学 富島義幸)

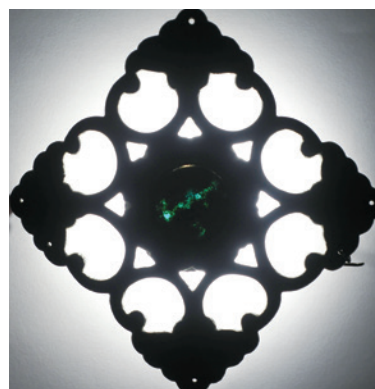


図 6 金剛心院跡出土方形金具（筆者撮影）